

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	守山市立よしみ乳児保育園
代表者氏名（管理者）	園長 河本 恵里
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
定員（利用人数）	55名
施設・事業所所在地	滋賀県守山市吉身二丁目5-9
T E L	077-514-0280
F A X	077-514-0281
電子メール	yoshimi-nyuuzi@rakuwa.or.jp
ホームページアドレス	https://www.rakuwa.or.jp/hoiku/yoshimi_infant.html

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
評価実施期間	令和7年8月27日・8月28日

3 評価の概要

○ 総合評価

守山市立よしみ乳児保育園は、近年の守山市の子育て世代の人口増加に伴い、乳幼児期の待機児童が増えたことを受け、令和6年に新設された公設民営の保育園です。園舎自体は、元々は別の目的で使用されていた建物のため新築ではありませんが、内装は新築同様の改装を行い、完全バリアフリーで綺麗で明るく、乳幼児が昼間の時間を安心して過ごすことができる環境です。

乳幼児期の繊細な保育期間を、愛着形成と信頼関係を築く事を主な目標とし、「子どもたちの個性や発達を大切にし、その子らしさを育む」、「子どもたちが主役となる笑顔いっぱいの保育を行う」、「心身の育ちを願い、子どもたちの生きる力の基礎を培う」を理念として掲げ、子どもの育成に尽力しています。

乳幼児期にしかできない遊び（運動遊び）や食育（絵本給食）によって乳幼児期にしかできない観点で、子どもを大切に護り、育てています。園長を筆頭として、園児と保護者の心と身体を一体的に保護するような関係性の構築にも力を入れており、総合的な観点から見ても魅力的な保育事業が展開されています。

○ 特に評価の高い点

①保護者と職員との良好な関係性について

よしみ乳児保育園においては、園児に対し安心・安全な保育が提供されているのは優れた点ですが、それ以上に、保護者との関係性作りに力を注いでいます。中には初めて（長子）の保育で一生懸命になるあまり余裕を失ってしまう保護者もいます。そんな表情を職員室から見逃さず、さりげなく声をかけ、相談に乗る事を繰り返すうちに、関係性を築くことができます。時には保護者から「話を聞いてほしい」と申し出があるなど、相互に関係性が築けているので、家庭と保育園との保育環境の差異をできるだけ小さなものとなるよう工夫を積み重ねています。

また、今年度から保護者会も始動し、役員も立候補でスムーズに決まるなど、普段からの関係性の成果が表れており、保護者からの要望で保育園入口の扉に電子錠の設置が実現するなど、黎明期ならではの改善が着実に進んでいます。

②保育士や関係職員の成長について

乳児保育園として独立した形で新設されて2年目を迎え、子どもたちが環境に慣れてくると共に、保育士や関係職員（栄養士など）も成長しています。昨年は実施できなかった園外散歩に出れるようになり、活動の幅が広く深いものになりました。また、保育で使う絵本と給食をリンクさせて、絵本の中に出てくる食べ物を「絵本給食」として提供することにより、子どもたちは絵本の世界の味を実際に食べて知ることができ、子どもたちの世界観がぐっと広がりました。

園で野菜を育て、「おにぎり屋さん」を行い、食育に力を入れてきました。家では食べなかった野菜（料理）を保育園でなら食べる事ができました。保護者からレシピの公表を乞われ、実際にレシピ化して提供し、喜ばれています。このように若手保育士とベテラン保育士、関係職員が力を合わせて保育に臨んでいます。

○ 改善を求められる点

①若手職員の成長の陰にあるベテラン職員の負担増について

若手保育士の成長が著しい中で、ベテラン保育士の負担が増加しているように感じられました。保護者対応から地域の方との折衝、法人本部とのやり取りや各種評議案件の調整に至るまで、管理職クラスには様々な仕事があり、管理を担う職員に重責が集中しています。しかし、そのような状況の中、大きな事故もなく2年目を迎えることができているのは、職員全員の努力と成長の賜物ではないかと感じました。

このような若手職員が今後の洛和福祉会の福祉事業部を支え、守山市の保育を支えていくのは間違いありません。従って、今はベテラン世代の職員を人数も含めて手厚くし、負担を分散させた上で、じっくりと若手世代を育てていく事を推奨すると共に、今後の園の発展に期待しています。

②災害時の対応計画や被害想定について

近年の災害の予測できない点は「想定を超えてくる」被害です。よしみ乳児保育園ではその状況がどこまで想定されているのか、被害想定が甘く曖昧ではないかと感じました。野洲川の氾濫が想定されていますが、水がどこまで深く浸水するか、想定より超えた時を仮定して準備ができているのか、野洲川が氾濫して浸水した時、現在の保育園の立地状況を考えると、先に被災するのは守山市役所庁舎の方です。その時、本当に市役所側に逃げる事が可能か、或いは適切なのか検討する必要があります。

守山市役所庁舎に逃げる事ができたとして、側溝を通じて鉄砲水、冠水が起こり、現在の保育室が床上浸水して全部浸かってしまったとしたら、それが復旧するまではどのような緊急の保育体制を作るのか、今一度見直しを行う必要性を感じます。被害想定を高く（酷く）設定した災害対応計画を準備することを推奨します。

③中・長期における保育園としての事業計画作成について

運営法人が大きいので、法人としての基盤が適切にできているのは確認できました。しかし、よしみ乳児保育園として、単園としての運営状況を鑑みると、中・長期計画が弱いと判断しました。

守山市の社会情勢も見据え、ここ数年の保育動向に注視し、具体的に数年後までの事業計画を立て、それを元に、単年度の事業計画を策定していく流れを作り、矛盾しない保育計画に落とし込んでいく必要があります。また、それを更に地域へアピールしていく必要があります。今の守山市は待機児童が多いので、ほぼ自動的に園児が確保できますが、それが停滞した時に公設民営の保育園として生き残っていく事が可能なのか、中・長期で考え、それを資料に残し、計画の上に保育園の運営が進んでいく事が期待されています。法人と守山市が考えている動向を記録し、資料として印刷または、ファイルとしてパソコンの中に入れておくだけでも違うと思われます。なお、事業計画の一環として、事業用（業務に使用できる）のパソコンを増設することを期待します。業務の効率化は、職員のストレスを軽減し、より長く働いてもらう助けになると考えます。法人として、保育園として、先行投資されることをお勧めします。また、園内においては、絵本は比較的充実している印象でしたが、おもちゃ等が少ないように感じられました。子どもたちの保育環境の向上のために、実用的なおもちゃの配備を期待します。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

昨年度末には初めての卒園児を送り出し、開園してから2年目を迎えました。

園児が卒園した後も進級した市内の各保育園と連携し、卒園後も子どもたちの健やかな成長を継続して見守ることができるよう情報共有しています。

新入園児は毎年、全園児の3分の2近くを占めますが、子どもたちや保護者との信頼関係づくりや安全・安心な保育環境づくりを新入園児も進級児も同じように大切にして運営してまいりました。日々様々に起こる出来事に真摯に対応し、大切なお子さまを預かる場として保育者一丸となって取り組み、保護者の皆様には乳児保育園としての園運営にご理解やご協力をいただいているおかげで、安定した運営ができています。

毎年第三者評価を受審させていただくことで、園の現状を職員と共に再確認し、足りていないところや努力点はどこなのかということが明確にでき、今後改善すべき点などへの気付きとなっています。

現状で保育園が取り組んでいることに対して高い評価をいただいた部分もあり、現場の保育士も日々の保育への自信に繋がったと思います。今回の評価結果を受け、想定を高くまた長期にわたっての計画を作成し、今後も地域に必要とされる乳児保育園の運営を引き続き行ってまいります。ありがとうございました。